

## 大学における和裁教育の基礎研究

和洋女子大学 伊藤 瑞香

着物の仕立て上がり寸法には標準寸法というものがある。標準寸法で仕立てられたものならば大抵のひとが着装できると思われがちであるが、洋服のフリーサイズとも異なり、許容範囲は洋服のフリーサイズよりも狭いものである。確かに着物の場合、着付けの仕方で多少の融通をきかせることは可能であるが、昨今融通をきかして自分で着装できる若い女性がどのくらいいるであろうか。自分の寸法に合っていないものは、時間とともに着崩れの現象が生じ、その現象にも気づかず、あるいは気づいても直すことができないなど、着装容姿の対処方法が、若い女性にとって難しいことは言うまでもない。着物に興味はあるけれど、思うように挑戦ができず着物離れに拍車がかかっているのが現状であり、危機的な状況である。

このような昨今ではあるが、本学では和裁教育に勤しんでいる。このような昨今であるからこそというべきかもしれない。着物は構造と寸法の間接関係を理解し、各自採寸後に割り出し法<sup>1)</sup>により算出した寸法で製作し着装することが、より長く美しい容姿を保つための秘訣である。まずは着物を理解し、寸法を増減することで、どの部分がどのような形に変化するのかが想像できるのである。それにより自分の制作物は勿論のこと新たな着物の形を思い描き、現在よりも着やすく、モダンな着物への発想力や想像力の育成に繋がると考える。

上述の通り、和裁教育の基礎研究は、体型を考慮したしるし付けが必須である。図1は身長と胴回りの関係について脇線に注目したものである。身長が高く胴回りも大きければ、肩幅・後幅双方ともに寸法を出すことができるので問題は起こらない。しかし身長が高く胴回りが小さい場合は、以下の③④のように肩幅、後幅の差が4 cm、5 cmになってしまうので、③の場合は後幅を、通常の身八つ口のところからとるのではなく、肩山から70 cmのところから後幅をとる。④の場合も肩山から100 cmのところから後幅をとることで、肩差し部分の傾斜をなだらかにすることができる。

- ① 肩幅 32 cm－後幅 30 cm 肩差し 2 cm
- ② 肩幅 33 cm－後幅 30 cm 肩差し 3 cm
- ③ 肩幅 34 cm－後幅 30 cm 肩差し 4 cm
- ④ 肩幅 35 cm－後幅 30 cm 肩差し 5 cm

後身頃を開いて前身頃が見えているのが図2である。12年前の繊維学会誌<sup>2)</sup>の解説にも記させて頂いたが、自分のバスト寸法に合わせて身幅を広げるために、図にあるように前身頃の衽付け線⑤⑥⑦⑧のいずれかを選択し、胸幅(抱幅とは区別するため胸幅としている)寸法の調整をすることができる。

- ⑤ バストが 80 cm未満は、衽肩明き寸法－1 cm
- ⑥ バストが 80 cm以上は、衽肩明き寸法－2 cm
- ⑦ バストが 85 cm以上は、衽肩明き寸法－3 cm
- ⑧ バストが 90 cm以上は、衽肩明き寸法－4 cm

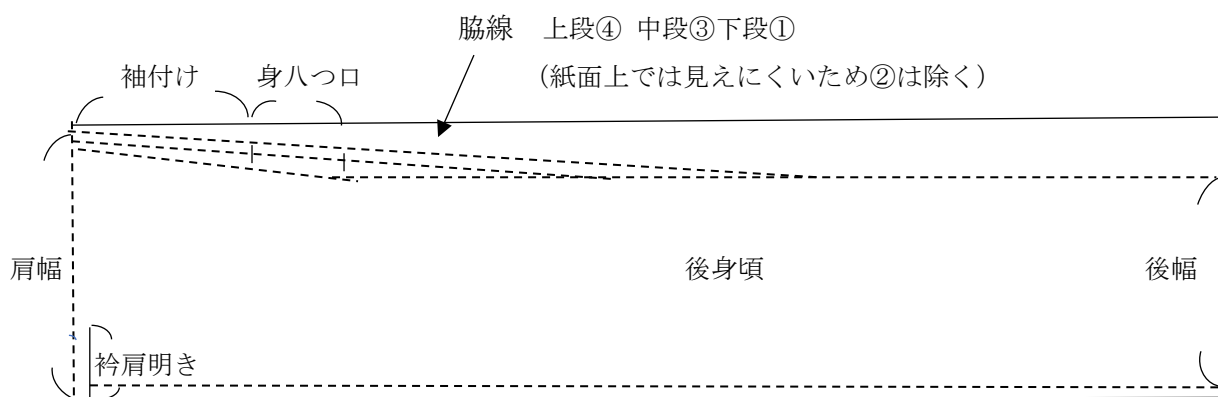


図1 後身頃のしるし付け

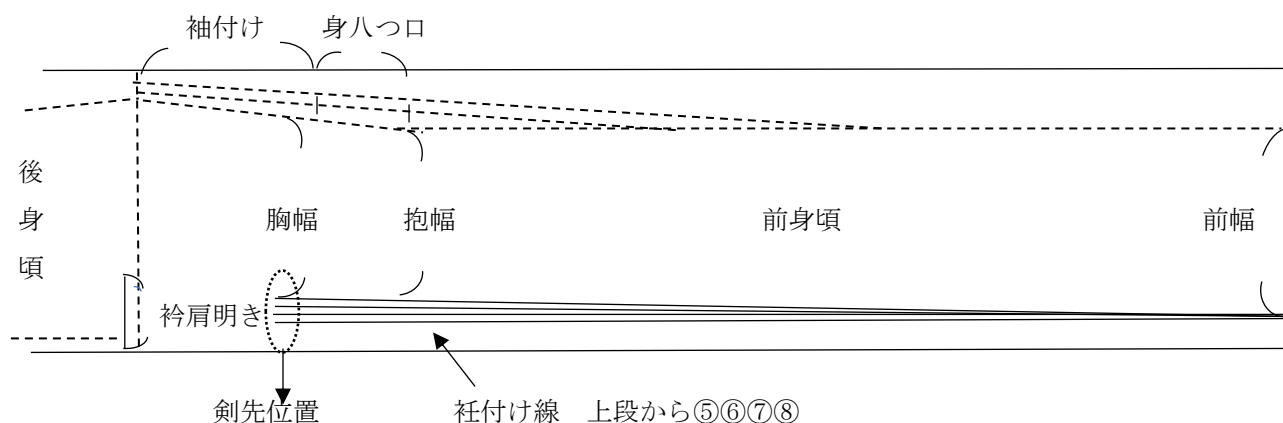


図2 前身頃のしるし付け

結果として、身長と胴回りの関係については、肩幅を広げ、衿を確保し脇線の傾斜をなだらかにすることで、袖付けの縫製を容易にすることができる。

もう一方の胸幅寸法の調整は、自分のバスト寸法により衿付け線を移動することで、胸幅を広げ、着装した際の胸元、いわゆる衿合わせの交差位置をけいか点位置（喉のくぼみ部分）に近づけることが可能となり、胸元の着崩れを防ぐことができる。

しかし全て上手くいき課題がないわけではない。なだらかに付けた脇線はその分後幅が広くなり、着装の際に脇に寄せた布が多くなり、皺やタックとなり着装容姿に影響を及ぼすこととなる。そこで胸幅寸法で調整した衿付け線をさらに移動することで多少の回避をすることができる。一枚の平面の布が様々な箇所で開催されていることを学生には理解してもらいたい。そして開催されている箇所が理解できると自分で着崩れも直すことができるという相乗効果が生まれるのである。

和裁教育の基礎研究とは機能面に重点がおかれていると考える。これまでに研究された機能面と、歴史のなかで培われてきた装飾の技術、そして人が着るという行為により初めて着物は美しい造形美を作り出すのである。社会的規範が多いと思われがちであるが、あまりルールにとらわれず、視点を変えることで面白い着物が生まれるのではないかと考えている。大学教育では、少しでも和裁に興味のある学生がより関心をもつような授業を心がけ、これからの若い発想に期待をしたいところである。

#### 参考文献

- 1) 伊藤瑞香・山口直子・仲村洋子・羽生京子：「和服構成における着装容姿についての考察」, 和洋女子大学紀要, 第49集, 家政系編, 1-14 (2009)
- 2) 伊藤瑞香、2011, 解説「大学での和裁教育」, 繊維学会誌, Vol. 67, 12, p361